

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299―5367

郵便振替 〇〇一〇〇―九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

くもくごく

■ 巻頭言 ■

よみがえる帝国主義の蛮行

原野人：2

今日の戦争を考える

市原芳樹さんを偲んで

山下俊幸：4

― 一生学習を貫いた人生 ―

原発のない明日を

稲村守：8

老朽原発廃炉を参院選の争点に

― 5・29若狭の老朽原発なくすため、全国から2100人決起！

私たちは、根室本線を廃止しては、

いけないと考えます！ 佐野周二：10

◇ 資料 ◇

政府・国土交通省に対し

根室本線富良野―新得間の存続を訴えることを求めます―

読者からのおたより

・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

◇ 本の紹介 ◇

原野人著『牙を抜かれたマルクス主義

・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

― 斎藤幸平とマルクス・向坂・資本論』

旬刊 社会通信

NO.1363

二〇二二年七月一日号

二〇二二年七月一日発行
(毎月一日・一五日二回発行)

よみがえる帝国主義の蛮行

今日の戦争を考える

レーニンは帝国主義についてこう定義している。

「およそ定義というものは現象の全面的関連をその完全な発展においてとらえることはけつしてできない、というあらゆる定義につきものの制約的・相対的な意義をわすれることなしに、つぎの五つの基本的標識を包含するような帝国主義の定義をあたえなければならぬ。すなわち、(一) 経済生活の中で決定的役割を演じている独占を創りだしたほどに高度の発展段階に達した、生産と資本の集積、(二) 銀行資本と産業資本との融合と、この『金融資本』を土台とする金融寡頭制の成立、(三) 商品輸出と区別される資本輸出が特に重要な意義を獲得すること、(四) 国際的な資本家の独占団体が形成されて世界を分割していること、(五) 最大の資本主義的諸強国による地球の領土的分割が完了していること。帝国主義とは、独占と金融資本との支配が成立し、資本の輸出が顕著な意義を獲得し、国際トラストによる世界の分割がはじまり、最大の資本主義諸国による地球上の全領土の分割が完了した、というような発展段階における資本主義である。」(『帝国主義』岩波文庫版145～146頁)

レーニンらによつて勝ち取られた百余年前の社会主義革命も、第二次世界大戦のフアシズムから解放された後に生まれた東欧諸国も、残念ながらマルクス・エンゲルス・レーニンの科学的な国家論、官僚主義を防ぐ方策が無視された結果、変質し、社会主義を蘇生できぬまま反革命によつて崩壊してしまった。人民中国も資本主義に変質してしまった。その結果、地球は再び全面的に帝国主義が覆い支配することとなった。

かくして、社会主義から解放された帝国主義諸国の独占資本は、発展速度の大きな違いのなかで、存分に不均等な発展をとげた。

「金融資本とトラストは、世界経済の種々の部分の発展速度をよわめることなく、かえつてこれをつよめる。だが、力の相互関係が変化したばあい、この矛盾の解決は、資本主義の下では、力による以外に何に求めることができるか？」(同上、157頁) プーチンによる露骨なウクライナ侵攻もこの現れである。

「力による解決」のためには軍事同盟を結ぶ。NATO、日米安保条約、米英豪のAUKUS・・・といったように。日米豪印の首脳会合(クアッド)も軍事同盟化を匂わせる。

日米帝国主義にとつて中国帝国主義の東進を阻むためには、沖縄県民の命など虫けらも同然である。北海道に至る日本全国の労働者国民の命にもさしたる違いはない。

東京新聞(5月24日)はこう伝える。

「中国をにらんだ軍事強化はクアッドの中でもすでに日米が一体的に進めている。米軍の対中戦略は、南西諸島から台湾、フィリピンにかけて『第一列島線』での封じ込めを基本とする。この線に沿つて射程五百キロ以上の地上発射ミサイル網を築く構想があり、2022会計年度の国防総省予算で基金を設けた。日本も16年に与那国島へ自衛隊の情報収集部隊を設置。さらにミサイル部隊を19年に奄美大島、20年

に宮古島へそれぞれ配備した。」「米豪は（日本を）中国の東進を阻む防波堤にしようとしている。もつとも狙われるのが米軍基地を多く抱える沖縄だ。（中略）諸悪の根源は日本政府だ。不平等な日米地位協定を改定してほしいと求めたことさえない。（小口幸人弁護士）」

同紙は同日の社説でこう主張する。

「首相は（米大統領との）会談で、敵基地攻撃能力の保有検討を含め、日本の防衛力を抜本的に強化することを表明したが、日本が敵国の中枢まで攻撃できる能力を保有することは、攻撃力を米軍にゆだねた安保条約を変質させるものにほかならない。周辺国から先制攻撃の意図ありと疑われ、地域の緊張を高める要因にもなり得る。……日本が防衛費をGDP比2%にまで増やせば、世界第3位の『軍事大国』になり、戦後日本が歩んできた『平和国家の道』を大きく外れてしまう。……日本の防衛力強化や防衛費増額が周辺国に脅威と映り、軍拡競争に拍車をかけることになれば本末転倒だ。」

これは日米安保条約という帝国主義的軍事同盟を肯定する商業紙でありながらも、深く杞憂し強く警告する社説である。

日本独占資本の政治的代理人を代表する岸田文雄首相は、一方では「核兵器のない世界」を唱え、5月23日の日米首脳会談で、来年の先進七カ国首脳会議（G7サミット）を被爆地広島市で開く意向を表明して核軍縮への意欲を示して見せる。他方ではバイデン米大統領と米国の「核の傘」の重要性を共同声明で強調した。核兵器禁止条約を批准する意思は毛頭ないし、6月に開催される同条約の締約国会議にオブザーバー参加する意思もない。

岸田首相は23日の日米首脳会談に次いで、26日の衆院予算委員会でも、これまで歴代政権が使用してきた名称を改め「敵基地攻撃能力」にかえて「反撃能力」を使った。これまで想定されてきたミサイル発射台への攻撃にとどまらず、相手国の指揮統制機能等々にも攻撃対象を拡げる意味となる。憲法第9条も非核三原則もいよいよ形骸化される。

とはいえ米中間、日中間などの貿易は、額も比率も非常に大きくなっている。相互の資本輸出も大きくなっている。はたして米日が中国と開戦できるものだろうか。

帝国主義的軍事同盟による軍拡競争は、戦争に突入しないままでも、独占資本の利潤をおおいに拡大して、労働者国民の生活と命をどこまでも犠牲にする。

『帝国主義』に帰ろう。

「帝国主義は、……ひとにぎりのもつとも富裕な国々にとつての独占的高利潤を意味するが、このような帝国主義は、プロレタリアートの上層を買収する経済的可能性をつくりだし、これによって日和見主義を培養し、形成し、強固にする。だがただ一つ忘れてはならないことは、一般的には帝国主義に対して、特殊的には日和見主義に対して、反抗しつつある勢力のあることである。」（同上169頁）

「日和見主義は、もはや今日では、それが一九世紀の後半にイギリスで勝利をしめたのと同様に、数十年の長きにわたってある一国の労働運動における完全な勝利者となることはできない。反対に日和見主義は、幾多の国で、終局的に成熟し、爛熟し、ついに腐敗してしまつて、社会排外主義として、ブルジョア政治とすっかり融合しあっている。」（同上176頁）

日本帝国主義もプロレタリアートの上層を買収し、産業報国会を作って、大政翼賛会に糾合し、戦争に協力させたものである。その中にあつてもわが先輩たちは階級的な労働運動を追求してやまなかった。

戦後は労働組合とともに社会主義政党的組織づくりに多くの先輩・仲間が参加した。独占資本とその代理人たちは総評・社会党を解体して、日和見主義が威勢良く伸びたかにも見えたが、連合幹部は今や政府自民党や経団連と連合するほどに腐敗してしまい、ブルジョア政治とすっかり融合しあっている。階級的な労働組合をつくり社会主義政党的成長させる条件は熟している。

「どんだん右に行けば、地球は丸いからいずれ左に戻ってくるよ」と向坂先生がにこにこしながら言っておられたことを思い出す。

(原 野人)

市原芳樹さんを偲んで

―一生学習を貫いた人生―

偉大な先輩の死

私たちの小さな学習会『労働・社会科学学習会』代表の市原芳樹さんが5月7日逝去されました。1927年9月28日生まれで満94歳でした。謹んでご報告させていただきます。ご遺族との電話では近親者による家族葬とのことで、お通夜・葬儀等への参加は全てお断りしているとのことでしたが、9日(お通夜)の午前に連絡があり弔問が許されました。当学習会のメンバー、検見川分会時代の門下生など5名が最後の別れ(お通夜)に参加しました。

私は全電通千葉の組織づくりと闘いについて直接学びたいと思い、7年前から本格的にお付き合いをお願いしました。誠実な方で有意義な日々でした。

市原さんは、ご承知のとおり1967年から全電通千葉県支部の専従副委員長・書記長時代に、全電通千葉県支部の階級的強化に取り組み、とりわけ青年・婦人の学習と闘いをおして、仲間たちと共に700名余の社会党・社青同を組織し、右翼的傾向の強かった千葉県労働運動、社会党千葉県本部、全電通において左派運動の構築に奮闘されました。検見川分会からは社会党、社青同の専従者を6名輩出しています。

1974年には全電通本部の社会主義協会排除攻撃、1975年の社会党千葉県本部の分裂攻撃と続き、1977年の社会主義協会規制へと進みました。

私は、かねてから社会主義政党的強化・発展のためには、労働運動の再建・階級的強化なくしてありえないとの思いから、三池、国労、全電通千葉の資料を改めて読み解き、そして自からの昭和電工における体験を思い起こし、何らかのヒントを得たいともがいてきた。

市原さんから全電通千葉の組織づくり、闘いについて何度となく聞き取りを行い、著書、論文、講演録、学習記録、手帳など膨大な資料を全て我が家に持ち帰ってきた。同時に市原さんには、生まれてから今日に至るまでの履歴・闘いの記録を詳細に書いて頂いた。市原芳樹という人間像に迫らなければ、「仲間を信じる」「理論と実践の統一」「自己犠牲の精神」「学習一生」など様々な行動指針、到達した労働者思想や社会主義への確信を理解できないと考えたからである。

その内容には友人との関係、家庭の問題も赤裸々に記されていた。赤字で6ヶ所に記された「敗北の教訓」は市原さんの自己批判の姿勢がにじみ出ている。まだ教えて

頂きたかったことが沢山あった。ここ2、3ヶ月体調がすぐれないとのことで、訪問や電話を控えていた矢先の悲しい知らせであった。

市原さんが経歴と共に書かれていた当時の出来事の欄の最後には、「新社会党BIの提起」と記されていた。

軍国少年から労働運動へ

市原さんは1927年(昭和2年)千葉郡都賀村(現・千葉市若葉区みつわ台)で農業を営む家庭の4男として生まれ、幼少の頃は荷車に野菜を積み、お姉さんと千葉市中心街に売りに歩いていたが、恥ずかしく手拭いで顔を隠しながらだったと振り返る。小学6年生の時に父親が亡くなったが、優等生であったことから母親や兄弟の勧めで進学を決意し、1940年に旧制県立千葉工業学校に進学するも、戦時中で連日の軍事訓練、学徒動員で軍国少年となった。この頃はヤンチャな側面もあったという。1945年2月、工業学校5年生(17歳)で卒業2ヶ月前の1月、志願兵として海軍航空隊藤沢基地に入隊し特攻隊の訓練を受けます。6ヶ月後に特攻隊として出撃予定が決まった直後の8月に敗戦し9月に復員しました。

復員当時、友人から鎌や鍬の使い方の手ほどきを受けながら実家の農業に従事しますが、1948年に南方に出兵していたお兄さんが復員したため農業から離れ、工業学校当時の友人のすすめで千葉県警察本部通信係(事務職)に就職しました。

1950年に県警本部を円満退職して、同学校時代の友人の紹介で通信省(後の電電公社)を受験し検見川無線送信所に転職しました。勉強家であった市原さんは1955年に無線技士国家試験2級、1級に合格し仕事に邁進していました。

その頃、検見川分会は関東地本の伝送支部に所属していましたが、1959年春闘の全電通統一行動指令(時間内に15分食い込む職場集志)を返上し、全電通関東で唯一統一行動を離脱し脱落分会の汚名を受けることになりました。上部団体幹部から強く叱責され、労働組合というものを知ります。これを受けて、市原さんは分会執行部に入り労働運動の道に入りました。その頃、偶然にも労働者の理論・思想に出会ったという。シベリア帰りの先輩(共産党員)から貸してもらった3冊の本『実践論・矛盾論』『社会発展史5つの生産関係』『階級闘争論』(いずれも中国共産党の書物)と労働大学初期の『通信講座テキスト』で、「労働者は社会の主人公」という思想が強烈だったと振り返り、そのことが自分の生き様、運動の方向性を与えてくれたという。

向坂先生との出会い

1960年の三池と安保の闘いを経験し、翌年には34歳で分会長に就任し、同時に千葉地区労の副議長に就任します。小分会である検見川分会は各種共闘運動や選挙運動など大分会に負けず劣らずの活動を展開します。上部団体の伝送支部は支部委員長就任を誘い、他方、当局は通信部課長昇進を勧めるなど分会からの切り離しを策動しますが、一切の誘惑に乗ることなく分会活動に専念し、強力な分会をつくり上げます。

その後、検見川分会は組織変更で伝送支部から千葉県支部に変わり、1967年には県支部三役態勢の強化のためと誘いを受け、40歳で千葉県支部専従副委員長に就任しました。同時に当時の全電通規約により、公社籍を離籍し退路を断りました。

早速、労使の「顔合わせ会」の廃止、女性の生理休暇の取得など女性労働者の権利向上に取り組み、青年部、婦人部、サークル活動に多額の予算化を実現し、青年運動・婦人運動の強化に乗り出しました。

1969年に向坂逸郎先生と出会い生涯の師と仰ぎ、更に1971年に灰原茂雄さんらと本格的に交流が始まったことが、その後の生き方に決定的影響を受けたという。1972年に書記長に就任し、県支部の闘いの方針として5つの柱を提起しました。

- ①生命と権利を守る闘い
- ②学習闘争の強化
- ③婦人運動を最重要課題として青年・婦人運動の推進
- ④文化闘争と反合闘争の結合
- ⑤消費生協の活動。具体的には婦人労働者の職業病「頸肩腕障害」の認定闘争と職場改善の反合闘争を最重要課題として開始します。

社会主義協会排除攻撃の開始、協会規制へ

1974年、全電通第27回全国大会代議員選挙、県支部役員選挙、中央委員選挙の結果について、上部団体の関東地本は選挙に不正があったと決めつけ、不当にも全国大会から千葉の代議員を排除し、県支部役員選挙、中央委員選挙のやり直しを指示する暴挙に出ます。再選挙では全電通本部・関東地本、当局、社会党右派が一体となって介入し、全県で不正選挙、社会主義協会排除攻撃を全面展開。激しい攻防の末、市原さんから協会派役員は全員排除されました。

市原さんは当局支援の下で全電通関東地本や社会党右派らが組合破壊分子のインホーム組織「県支部歴史研究会」がつくられ始めたことを薄々感じていたものの敵の力を甘く見ていた、と自己過信に対する反省と敵の本質について語っていました。47歳で書記長から追放され、規約に基づいて1978年まで関東地本の書記として、何の仕事もないまま4年後の1978年に51歳で無職となり、その後植木職人の見習いから職人となり、労働者の学習活動、社会党の運動に邁進することになります。

市原さんの行動指針 思想の形成と実践

「労働者は乞食ではない、資本・当局に頭を下げて貰うものは何もない、闘いとるものは沢山ある」「あらゆる闘争は階級闘争である」とし、具体的には①理論と実践の統一 ②日和見主義と断固闘う ③自己犠牲の精神の3点を常に意識してきたと言われる。日常の運動について①闘いを見据えた準備 ②交渉屋ではなく横綱の労働運動を目指す ③デマや冷やかしに言い訳はしない ④泥棒以外は何でも相談に乗れる指導部づくり。

実践としてやってきたことの一部を紹介すると、24時間無施錠の売店運営である。仲間を信じ、売店の収支を完全に組合員に託したこと、当局管理のレクや冠婚葬祭などは分会で取り仕切る、職場慣行の完全履行など多岐にわたります。

無施錠の売店運営では、記帳を忘れたり、ちっと失敬したりと赤字が続くが、収支を合わせ、分会ニュースで「今月も収支は合いました。皆さんの団結の証です」と報告し続けた。「無施錠の売店など出来る筈がない」とタカを括っていた当局は驚き、他方、ちよっと失敬したり、記帳を忘れた仲間たちは気まぎれになり、1年後には完全に収支が合うようになったという。

市原さんの学習態度には見習うものがあります。毎日の学習を手帳に、本名とページ、感じたこと、重要と思われることを書き綴っていた。2016〜2018年当時の手帳の一部を紹介する。『共産党宣言』『反デューリング論』『左翼小児病』『哲学の貧困』『経済学批判』『資本論解説』『資本論』『同志に与う』『イギリスにおける労働者階級の状態』『社会主義革命における労働組合の役割』（レーニン）、『国家と革命』

『向坂書簡』『三池と私』『わが生涯の闘い』『空想より科学へ』『何をなすべきか』『レニンの労働組合論』等々。

しかも、勉強の仕方は半端でない。本を見ると鉛筆で一字一句舐めるように丁寧に読み、集中して理解しようとする姿勢と何度も繰り返し読んでいることが伺える。

絶対的な師と仰ぐ向坂逸郎が亡くなった時に、全電通反合研が発行した『追悼記念集』では向坂逸郎の「壁に面したら、これを突き倒したい。突き倒す力の結集は、まず1人の同志をつくる努力から始まる。……」(『社会主義』1966年1月、「私のインソップ物語」の論稿)を紹介し、反合研代表として「闘い続ける限り一生先生から学びつづける」と題して長文の論文を載せている。

ベーシックインカム、そして息子さんへの自責の念

新社会党が「討議資料」でベーシックインカム(BI)を提起した時、私は党県本部大会(2017年)で反対の立場で発言した。その時、親交の深かった上野建一さんが傍に来て「構造改革論の時は、もっと激しい議論だった」と言われたので、上野さんはBIに反対なんだと思っていた。市原さんも反対の立場を表明した。2018年の大会で、上野さんはBI反対の立場の党員に「あんたらの大将に言っておけ」「誰のことですか、市原さんのことですか」「そうだ。『左翼小児病』を読むように言っておけ」とそれを聞いた市原さんはニコニコ笑いながら「山ちゃん、おかげさんで改めて『左翼小児病』を勉強させてもらったよ」と。何と懐の大きい人なのだろう。続けて「ケンちゃんもBIに賛成なの、どうしてかな」と何度も首を傾げながら「こんな単純なことで……」また首を傾げながら「向坂先生は党で政策問題が出た時は気を付ける、とよく言っていた。BIと社会主義どう結びつくのかねー、日和見主義以外の何物でもない」と何度も首を傾げていた。

市原さんは労働運動・社会主義運動に没頭して、決して家庭的とは言えなかった。高校生の息子さんが病を発症し、その後若くして亡くなったことについて、千葉電通闘争の真つ只中とは言え、治療について相談に乗ることもなく、やがて死に至ってしまった。「息子を殺したのは俺だ」と何度も聞かされた。自責の念は亡くなるまで続いた。私に対する最後の言葉は新社会党の変質に対する無念さと息子さんへの思いであった。「アア山ちゃん」と言って掛けてくる電話はもうない、そう思うと寂しさが込み上げてくる。

「書」

市原さんの家に掲げてあった向坂逸郎から1969年に市原さんに送られた自筆の大きな書は「哲学者は、いろいろに世界を解釈しただけである。しかし問題は世界を変えることにある」という若き日のマルクスの言葉であった。鷲ノ宮の向坂邸の書庫にドイツ語で書かれていた文章そのものである。

向坂逸郎は「労働者に、一度、労働組合の必要性について話をすれば『いいでしょう、私も今すぐあなたと一緒に労働運動をやりましょう』と言ってくれるようなら、労働組合運動くらいやさしいものはない。むしろ、労働者は、なかなか労働運動の必要など分かってくれないから、労働運動があるのだ、と言っていいほどのものである。われわれが労働者に熱心に話しかけなければならぬのは、労働者が簡単によからう、やりましょう、と言ってくれないからである」(『愚者の道』163頁)という。この言葉を肝に銘じながら、市原さんの足跡をまとめ、教訓として残すことが私に課せら

れた遺言として受け止めた。

全国の元全電通の活動家の皆さんは頑張りました。最近、元全電通千葉の党員が「市原さんは労働運動の活動家だったけど社会主義者ではない」と言われという。彼こそ市原さんが最も嫌う日和見主義に陥っている。485頁に及ぶ大作『生命と権利の闘い』（1975年）と『全電通千葉支部の歴史と役員・75日間の闘い』（1974年）は「労働運動と社会主義の融合は社会主義者の任務」と提起している。ぜひ読み返し、市原さんを思い出してほしい。

次回6月18日開催予定の第26回『労働・社会科学学習会』で、市原さんの足跡を掘り下げて詳しく報告したいと準備を進めている。向坂逸郎、岩井章、灰原茂雄らとともに市原芳樹さんは私にとって忘れられぬ師である。感謝を込めて。（山下 俊幸）

原発のない明日を

老朽原発廃炉を参院選の争点に！

15・29若狭の老朽原発なくすため、全国から2100人決起！

2022年5月29日、カンカン照りの真夏日となった大阪うつぼ公園で「老朽原発のまま廃炉！ 大集会 in おおさか」が開会された。関西・福井・東海始め全国の原発立地地元、老朽東海第2原発反対運動の茨城・首都圏の仲間など2100人の参加で、コロナ禍での最高の参加となった。

主催は「老朽原発うごかすな！ 実行委員会」。集会は大木りゆうた・高槻市市議の司会で進行し、原子力発電に反対する福井県会議の中寫哲演さんの主催者挨拶があった。中寫さんは、「ウクライナ戦争で原発は核兵器に転化しかねないことを実感させた。数万KWHの需要しかない若狭にばかり原発押し付けはなぜ、美しい若狭を、1450万人の飲み水の琵琶湖を守るう、参院選で老朽原発反対を争点にして行動しよう」と訴えた。

美浜3号機運転差止め仮処分と子ども甲状腺がん裁判について井戸謙一弁護士、名古屋での老朽原発40年廃炉訴訟の草地妙子さん、若狭（山本雅彦さん）と東海第2原発（披駄田信一郎さん）の老朽原発現地から2人の発言を受け、原発賠償関西訴訟原告団・佐藤勝十志副代表の発言と進んだ。

全国からの仲間が次に登壇し、紹介を受け、なくそう原発・核燃・あおもりネットワーク・中道雅史事務局次長とさよなら島根原発ネットワークの芦原康江さんが発言した。

老朽原発うごかすな！ のポテッカード全員掲示のアクションのあと、近畿5府県から6人の仲間の発言となり、滋賀からは脱原発市民ネットワーク in 滋賀岡田啓子さんが次のようなアピールを行った。

【皆さまこんにちは。脱原発市民ネットワーク in 滋賀の呼びかけ人の一人岡田啓子です。2011年5月から毎月続けてきたデモが昨年12月で100回を超え、来たる6月11日には104回目をやります。

原発事故の衝撃が大きかった当初は、三百人近くのデモ参加者がありました。数年経つと次第に少なくなり、私は参加者を前に「もうやめようか？」と提案しました。すると、「何も状況は良くなっていない。」「今やめたら東電や関電の思うつぼ」と口々に訴えられ、「最低限、ここにいる私たちは参加する…これからも続けて。」「言葉

に背中を押され、何とか11年間続けることができています。

私は毎月のデモ申請の担当をしています。滋賀県警・公安委員会の受理手続きが、なぜか他府県より大幅に時間がかかり、忙しい私としては、実は、とつても憂鬱な仕事（百回を超える全く同じコースのデモでも2〜3時間）なんです。ところが5月5日付の中日新聞が五段抜きでこのことを大きな記事にしてくれました。忸度なしの鋭い記事です。大学教授のコメントがまたふるっています。

「都内でも30分から1時間程度で終わる。デモへの嫌がらせか、県警の事務処理能力の問題のどちらか」との指摘に、思わずニッコリです。これで、次回から申請手続きは少し早くなるかなあと思う反面、あの滋賀県警の傲慢な組織体質では、やはり無理かなと思う二つの理由があります。一つは、西山美香さんの冤罪事件です。（湖東記念病院事件）再審無罪が確定した美香さんを未だに犯人扱いしています。違法に取調べをした警察官も何のお咎め無し、新たな国家賠償の訴訟でも、被告滋賀県警は証拠書類の出し渋りを行ない1年以上も裁判を長引かせ、裁判長からも厳重注意される始末です。もう一つは、関西生コン支部への不当弾圧です。

滋賀県警の不当弾圧は現在も続いています。滋賀県警は労働争議の現場に、制服警官を出動させるという、とんでもない暴挙にできています。

西山美香さんへの不実な対応、関西生コン支部への不当な弾圧、そして時間のかかるデモ申請手続き、みーんな、根っこでつながっているのではないのでしょうか？

私たちのデモには、井戸謙一弁護士と共に西山美香さんも参加してくれました。また、関西生コン支部の組合員の方々も毎回参加してくださっています。心強いです。私もこの二つの裁判を傍聴し支援しています。これぞソリダリティ・連帯だと思います。これからも連帯して、皆さまと共にがんばります。」

続いて、社民党、新社会党、日本共産党、緑の党グリーンズジャパン、立憲民主党、れいわ新選組の代表が登場紹介された（各党の文書メッセージは全員配布のパンフに収録）。

労働団体から、フォーラム平和・人権・環境と全労連畿ブロック、おおさかユニオンネットワークの代表の発言を受け、実行委員会の木原壮林さんから「美浜原発3号機、高浜原発1、2号機という法規制の40年をはるかに超え、45から47年の危険な若狭老朽3原発をとめ、日本と世界から老朽原発を廃炉に持つていこう、それで原発のない明日をつくろう、そのためできるだけすべてをやり切ろう」との趣旨の集会アピール提案がされ、採択された。集会後、3つのグループに分かれ、たくさんの若者の、買い物やデートでにぎわう大阪御堂筋1時間半のデモに出発した。

「綾部の歌声」の皆さんが20人近く参加され、オープニングコンサートからデモ送り出しの歌声をやっていただいた。川口真由美さんと仲間たち、奈良の仲間のオープニングの音楽も大変良かった。心から感謝です。

（原発のない社会へ2022びわこ集会実行委員会・稲村守）

私たちは、根室本線を廃止しては、

いけないと考えます！

根室本線の一部区間が途切れたら？

1981年に石勝線が開業するまで、根室本線は札幌〜釧路・根室を結ぶほとんど唯一の路線でした。当時は食堂車を連結した特急列車や、貨物列車が頻繁に運行され

る重要線区でした。1981年以降は、基幹輸送の役割を石勝線に譲りましたが、2016年の台風では石勝線も長期にわたって不通になりました。札幌〜帯広間のトラックでの振替輸送は200日にも及びました。

このときの台風災害から根室本線はずっと復旧しないままです。しかし、根室本線が不通になっていなければ、今頃その価値は必ず見直されていたはずで

大震災で見直された迂回輸送

JRは根室本線が貨物列車の迂回輸送に使われる可能性は「低い」と主張しています。東北地方で使われる暖房用燃料は、根岸製油所（横浜市）で精製されています。

2011年の東日本大震災では、根岸製油所を含む首都圏と東北地方の輸送ルートはほとんどが途絶し、東北では真冬並みの3月に燃料輸送が途絶する事態が起こりました。当時、途絶していなかったのが上越線と磐越西線でした。首都圏から、上越線ではるる新潟に出て、磐越西線で再び新潟から福島へ戻るルートで、何とか石油列車が走り、東北の人たちを救ったのです。

上越線も磐越西線も普通列車しか走らず、もちろん赤字で、地元の人でさえ「高校を卒業してからは一度も乗ったことがない」「誰も乗らないからなくなっても困らない」と言っているような路線でした。しかし、未曾有の大災害に当たって人々の生命と生活を救うのは日頃は厄介者、邪魔者扱いされているこうしたローカル線なのです。

※なじみない地名多いかも。日本地図で勉強、生活や文化、開拓の歴史がみえ楽しい。(編集部)



「貨物列車の迂回なんて100年に一度。
そんなことのために鉄道は残せない」？

貨物列車の迂回輸送の話に触れると、必ずこのような話をする人がいます。しかし本当にそうでしょうか。この図は（本誌10頁）2016〜2021年の6年間で、災害により貨物列車の迂回輸送が行われた実績を示したものです。最近の異常な災害の続発で、毎年のようにどこかで貨物列車が走れなくなり、迂回輸送が発生しています。1995年の阪神大震災では、大動脈である山陽本線が2ヶ月半も寸断されました。災害の激甚化で不通期間が長期化していることも最近の特徴です。2018年7月の台風災害で、岡山貨物↔新南陽（山口県）でのトラック振替輸送は2ヶ月以上に及んでいます。

同じことは道内でもいつでも起こる可能性があります。こんなときに、石勝線さえ残れば迂回路線がなくてもいいという鉄道政策は誤っています。

プランAが失敗したときに、代替策としてプランBを用意しておかないのは、日本の典型的な負けパターンであり、歴史から何も学んでいないと言わざるを得ません。

***活動賛同金のご協力を！**

【郵便振替口座】 口座名：根室本線の災害復旧と存続を求める会

記号番号：02710・1・30061

◇資料◇鈴木直道北海道知事へ要請（5月24日）

政府・国土交通省に対し、

根室本線富良野―新得間の存続を訴えることを求めます

国鉄が「分割・民営化」されJRに移行して35年、危惧されていたローカル線の存廃議論が全国的な問題になっています。

JR西日本はローカル線の収支を4月11日に初めて公表し、「廃線基準」に当たる4000人を割り込んだ路線は2020年度に約6割に達し、5月11日には広島県の湯澤英彦知事など28の道府県の知事は、昨年8月に続き「地方鉄道の廃止は住民の生活や地域経済への影響が強く心配される」と緊急提言を国交省に提出しました。

JR北海道が全28線区赤字で「単独では維持困難」とする10路線13区間を発表して6年、高波被害の日高本線鶴川―様似間は復旧されずに廃止され、北海道新幹線・並行在来線の通称「山線」の余市―小樽間の廃線が決められました。

2016年夏の台風災害で根室本線富良野―新得間の「東鹿越―新得」が不通となった際、島田修社長は被災現場で「新得―落合間の復旧は雪解け後に行う」と言いました。

北海道が2018年に策定した「北海道交通政策指針」は、富良野↔新得間について「道北と道東を結ぶ災害時の代替ルートとして、また、観光列車など新たな観光ルートの可能性といった観点も考慮することが必要」としました。

これを受けてJR北海道の「第2次アクションプラン」では、「赤色線区」の根室線富良野―新得間について「滝川―新得間を一体として策定する」「生活面、観光面、物流面の3つの側面から事業計画期間において徹底的に検討」と記載しました。

滝川と芦別、赤平の3市を加えた7市町村で構成する根室本線対策協議会（会長・北猛俊富良野市長）の北富良野市長は、当会との意見交換では、「全線存続という意識は統一している。各地域で環境に合わせた取組みをしながら国や道、JR北海道に引き続き協議会として路線維持を要請す

る」と話していました。

しかし、その後、同協議会の富良野―新得間沿線4市町村首長は、国、道の支援が受けられない見通しとして「存続断念とバス転換の議論入り」を決めました。沿線自治体の住民説明会では、「鐵路存続をあきらめないで」「道東と道北・道央といった圏域を結ぶ鉄路の存廃判断を地元4市町村だけで行うのはおかしい」「国の責任で存続させるべきだ」など要望・意見が相次ぎました。

札幌と帯広を繋ぐ石勝線が災害で不通になった時、トラック輸送は200日に及びました。「根室本線が迂回路線に使われる可能性は低い」とJRは主張していますが、災害時に備えて迂回輸送が可能なルートを整備し確保するのは国の重要な責任です。

(貨物列車の迂回ルートを維持するJR旅客会社に貨物調整金を出せる法改正が必要)

食糧基地・北海道の農畜産物をJR貨物が安全に輸送するためにも、災害時の迂回ルートの役割を担う根室本線富良野―新得間の存続を政府・国交省に強く訴えることを要請します。

◇読者からのおたより◇

後世にどう言い訳をするのか 原発事故から12年目いよいよ国の責任について最高裁の判断が下されます。私たちは希望と不安が交差しております。

しかし、国策として本来に原発が必要だったのでしようか、核の平和利用だとして原子力発電所を稼働させてしまいました。事故を起こすまいが、後始末にどれだけの危険と不安が続く。原発事故から11年で明らかになりました。

これから何百年、それでも後始末ができるのか、誰がやるのか、電力会社なのか国なのか電力会社、国にしても電力料金と税金を投入していくとすれば、これまで以上国民に負担をかけることになるでしょう。強力に進めてきた政権はどう対処するのか。後世に對しどう言い訳をするのか無責任にも程がある。まして司法が国の責任がないなどの判決を下したら政権と癒着されたものであると決めつけざるを得ない。汚染水海洋放出、汚染土再利用等々無責任な方針ばかりである。

(原発事故被害者相双の会 國分富夫)

再び戦火への道許せない 今回の思い出の郵便ポストNo.191(2022年6月1日号)は、富山県井波彫刻総合会館への道路脇の丸型郵便ポストです。

今年の田植えは5月28日・29日の二日間やりました。りんごの仕事は毎日摘果作業です。ウクライナ侵攻に託けて再び「戦争」へのきない言動が表面化しています。

憲法9条を守りましょう。再び戦火への道を許す訳にはいきません。(長野県飯綱町 山浦隆芳)

好評発売中!

待望の書

牙を抜かれたマルクス主義

斉藤幸平とマルクス・向坂・資本論

原野人 著

本書の主な内容 序

第1章 牙を抜かれたマルクス主義

第2章 小ブルジョアインテリの夢想

第3章 科学的社会主義は必ずよみがえる
あとがき

定価 2,200円+税

▼注文はもよりの書店へ

▼10冊以上の注文は時潮社へ

1冊税込みで 2,200円 (+送料)

時潮社 東京都板橋区前野町 4-62-15

TEL (03) 5915 - 9046 FAX (03) 5970 - 4030

URL <http://www.jichosha.jp>